

初歩段階を中心とした書作品の鑑賞に関する研究 ―多様な鑑賞の可能性とその支援の在り方の検討―

A Study on the Appreciation of Japanese Calligraphy Works focused on the Beginner Stage: Exploring the Possibilities of Diverse Modes of Appreciation and Approaches to Supporting Them

芸術支援領域

市川結己の書道展の様子（筆者撮影）

本研究は、実際に作品を見る場面における調査を通して、特に初歩段階の人々がどのように書作品を鑑賞しているのか、その一端を明らかにし、多様な鑑賞の可能性と支援の在り方を検討することを目的とした。初歩段階とは、書の制作/鑑賞の未経験者や初心者・初級者の総称であり、熟達化研究を参照しつつ本研究で独自に設定した用語である。

書（書道）はユネスコ無形文化遺産への提案候補として選定されている（2025年末時点）。その背景には、習い事や稽古事として書に関わる人々の減少や関連産業の担い手不足などがあり、書の保護と継承に向けたさまざまな取り組みが行なわれている。「書く」ことに関する取り組みは比較的多く見られる一方で、「見る」こと、すなわち書の鑑賞に関しては、更なる展開の可能性がある。

現代における書の鑑賞に関する先行研究としては、現代の書の鑑賞に関する複数の論考を比較・検討した理論的研究や、学校教育における書写や書道の授業を念頭に置いた実践的研究が多数見られる。しかしながら、現代における書の位置付けを踏まえつつ、鑑賞者の領域関連知識や経験に応じた鑑賞の在り方を体系的に検討した理論や研究は、管見の限り十分に見られない。特に、初心者や未経験者の鑑賞の実態を実証的に明らかにした上で、その後の発展性を考慮した鑑賞の在り方を検討した研究は不十分であり、検討の余地がある。そこで本研究は、見ることで書に関わる人を増やすことを視野に入れながら、書の未経験者や初心者が書作品をどのように鑑賞しているのかを明らかにすることを目指した。

第1章 現代における書とその鑑賞

第1章では、本研究で対象とする書壇とその書作品の歴史的背景を踏まえ、現代の書の鑑賞について考察する上で重要となる点を整理した。

第1節では現在の書壇について、第2節では書壇における現代書作品の展開について概略を述べた。明治期における近

代的芸術概念の移入から美術制度の整備・確立の過程における書の位置付けと、その後の書や書展の展開に触れ、戦後、それ以前の枠組みに収まらない新たな表現として台頭した現代書への流れを概観した。

第3節では、現代における書の鑑賞に関する論考を複数取り上げ、複数の先行研究において鑑賞方法や鑑賞の深まりを測る指標として用いられている見方について整理し、その一面性を指摘した。その上で、現代の書の鑑賞を考察する際には、鑑賞という語の解釈の多様性、幅広い鑑賞対象及び鑑賞者が考えられ、それらに応じた鑑賞内容の異なりが想定されることを指摘した。そこで本研究では、鑑賞を「何らかの作品を見ている鑑賞者の内に生じる作品との対話的な営み」として、文脈に即した作品理解に限らない、鑑賞者と作品との間で成立する相互的な営みとした。また、書壇の現代書作品を鑑賞対象とし、未経験者や初心者も含めた鑑賞者を想定して、第2章の調査を実施することとした。

第2章 初歩段階を中心とした書作品の鑑賞の実際

第2章では、初歩段階の鑑賞者を中心に、人々がどのように書作品を鑑賞しているのかを明らかにするため、書展会場において調査を実施し、その分析と考察を行なった。

第1節では調査の概要として、本調査の目的と方法、調査を実施した展覧会と調査協力者、及び倫理的配慮について述べた。本調査は、一書道団体の支部展において、13名の鑑賞者に対し、筆者が会場の作品に関する聞き取り調査（半構造化インタビュー）を行なう形で実施した。13名の鑑賞者には、本研究で定義した初歩段階の鑑賞者との比較のために、書の経験者（制作歴が10年以上またはそれと同等の専門的知識・経験を有する者）数名が含まれている。また、初歩段階の鑑賞者内での比較のために、美術分野で専門性を有する人々にもご協力

をいただいた。

第2節では分析方法について述べ、第3節では分析と考察を行なった。聞き取り調査で得られたデータを基に逐語録を作成し、作品を見たことによって生じた鑑賞者の発言を抽出した上で、発言内容を四つの観点から分析した。四つの観点とは、①最初に作品を見るきっかけとなった要素、②鑑賞中に着目していた作品要素、③作品要素からどのような発言やその展開が見られたか、④それらの背景にあると考えられる鑑賞者の経験や知識である。鑑賞者ごとにこれらを整理した分析ワークシートを作成し、各鑑賞者の鑑賞内容をまとめた後、鑑賞者間で観点ごとに詳細な比較を行なった。加えて、認知科学などの知見を援用し、分析結果の更なる考察を行なった。

第4節では、初歩段階の鑑賞者の鑑賞の傾向をまとめた。特に作品の可読性・判読性が初歩段階の鑑賞者の鑑賞に大きな影響を与えていることや、芸術を専門としない初歩段階の鑑賞者の場合、一作品に対する鑑賞時間が短いことなどを指摘した。書かれた文字や文章が読めない/読みづらい作品は、形体と内容のどちらからもアプローチしづらく、避けられる傾向にあった。それらは主題の分からなさに直結し、作品背景の想像や理解に対する障壁となっていたと推察される。また、美術分野での専門性や制作経験は、鑑賞に対する姿勢と、特に形体的な要素に対する着目や指摘に影響が見られることを述べた。

上級者に比べ、初歩段階の鑑賞者は、領域に関する構造化された知識やそれに基づく認知的な枠組みの中で書作品を捉えることが難しいと考えられる。そのため、対象レベルで個々の特徴を理解する必要があり、知覚的に目立つ要素や既知の要素を手がかりに、結果的に自らが見ることのできる要素や部分を含んだ作品を鑑賞していたと言える。よって、鑑賞の出発点や着目要素は作品の性質に左右されやすい。また、着目要素やそこから生じる鑑賞の深まりは、鑑賞者の関連知

識や経験によって形成された見方に応じても異なると考えられる。

書作品そのものが未知の対象である初歩段階の鑑賞者は、自身の身近な経験や他分野の知識を基盤とし、書作品に対する理解を深めようとしていることが推察された。しかし、特に芸術関連分野を専門としていない鑑賞者の場合、自ら書作品に対する理解を深めることは難しく、鑑賞支援の必要性が示唆された。一方で、ある鑑賞者に見られた「類推による鑑賞」は、書作品に対する主体的な思考を可能にし、自身なりの理解や気づきを得ることに寄与していたと考えられる。

第3章 多様な鑑賞と鑑賞支援の在り方の検討

第3章では、第2章の結果を踏まえ、多様な鑑賞の可能性と鑑賞支援の在り方について検討した。

第1節では、領域に関する構造化された知識やそれに基づく認知的な枠組みを持っていない初歩段階の鑑賞者だからこそ、各々の知識や経験と結び付いた解釈や意味付けが行なわれ、多様な鑑賞の可能性が存在していることを述べた。今回の調査で実際に見られた例として、初歩段階の鑑賞者の主体的な思考を促す「類推による鑑賞」と、それ以外に見られたさまざまな見方を取り上げた。

第2節では、前節で述べた鑑賞の多様性を踏まえ、二つの方向性における鑑賞

支援の在り方を検討した。本研究における鑑賞支援とは、鑑賞者の目的や目指したい方向性に適する形で、鑑賞を適切にサポートすることである。手法や対象などにおいてさまざまな鑑賞支援の在り方を検討することが可能であるが、今回検討した二つの方向性とは、鑑賞者自らが主体的に作品を見て考えることによる意味生成的な鑑賞と、書の文脈に即した作品理解を目指す鑑賞である。前者に対しは、対話的な鑑賞における問いかけの観点から、後者に対しては、展示における情報提示の観点から、それぞれの鑑賞支援の在り方や工夫すべき点について検討した。また、第2章第4節で述べた、鑑賞時間や題材、作品要素及び作品形式に関する初歩段階の鑑賞者の傾向に対して、鑑賞支援における検討事項とその対応を考察した。

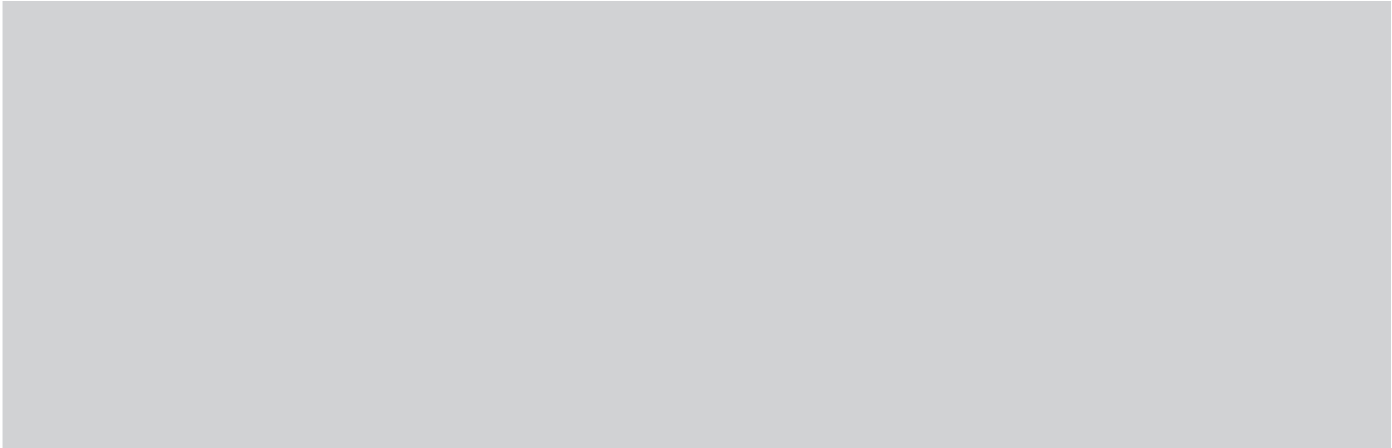
終章

第1節で各章の内容をまとめ、第2節で本研究の成果と課題を述べた。第3節では、書の鑑賞に関する今後の研究課題の可能性に言及した。

本研究の成果は、書の初心者や未経験者の鑑賞に焦点を当て、収集したデータに基づく実証的なアプローチでその一端を明らかにした点である。また、認知科学などの知見を援用し、よりの確な実態の記述に努めた。その結果、初心者や未経験者の書作品の見え方、分からなさを

感じる部分や作品要素ごとの着目傾向が明らかとなり、各鑑賞者の知識や経験に基づく見方の違いが示された。

本研究の課題は以下の三点である。一点目に、書の鑑賞に関する本質的な検討が不十分であった。第1章では歴史的背景を踏まえた書作品の特徴と現代の書の鑑賞における論点や検討すべき事項を整理したが、その上で書の芸術性や鑑賞について十分に述べることはできなかった。二点目に、鑑賞活動及びその内容を調査する方法や対象について、今回の調査方法や鑑賞対象の限定性、筆者の力量不足により明示することのできなかった側面などが指摘される。異なる対象や方法による調査は今後の課題である。三点目に、調査と分析及び考察を踏まえた鑑賞支援について、体系的に検討することができなかった点である。それらの実践と併せて、今後の課題としたい。



聞き取り調査を実施した書展会場の様子（筆者撮影）